

- ▶ 木材を身近なものとするためには、公共施設等での利用が効果的であることから、試験機関（県木材利用技術センター）等で開発した安全で耐久性に優れた加工技術を活用した木材を県有の公共施設においてモデル的に利用することにより、市町村等における木材利用の取組を促進する必要がある。
- ▶ このため、令和元年度においては、スギの心去り材を活用した木製ガードレールの取替え、スギに適した造作用金具を活用した木製遊具の設置に取り組み、公共施設での積極的な木材利用を通じて、県民の木材利用についての関心や理解を深めるとともに、施設利用者の安全性及び快適性の確保により県民の木材利用の理解醸成に努めた。

□ 事業内容

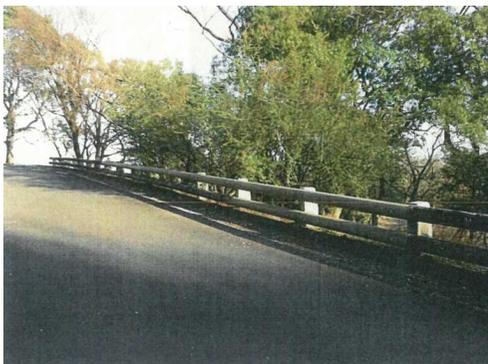
1 人と自然にやさしい公共施設木材利用推進モデル事業

【事業費】 8,662千円（うち譲与税8,662千円）

【実績】 木製遊具更新1基、ウッドガードレール更新13本
木材利用量（2 m³）

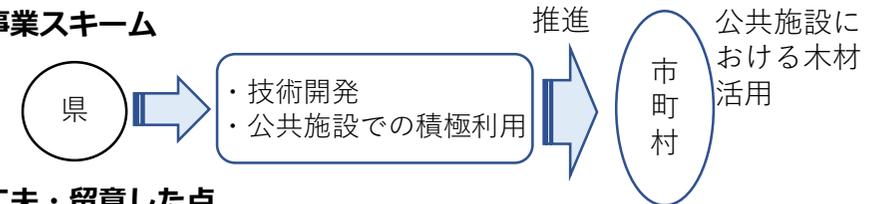


(木製遊具)
宮崎県小林市細野字山中之前
ひなもり台オートキャンプ場



(ウッドガードレール)
宮崎県児湯郡川南町大字川南字村上
宮崎県川南遊学の森

□ 事業スキーム



□ 工夫・留意した点

- スギに適した造作用金具を活用した木製遊具の設置
公共広場等における木製遊具の設置は市民に対して木への理解を深める場となるが、木製遊具の普及には安全に配慮した構造が求められる。このため、県試験機関と連携して本県の特産でもあるスギ材の接合に適した造作用金具を開発、活用することで、市町村への木材活用のモデルとした。
- スギの心去り材を活用した木製ガードレール取替え
心去り材は心持ち材に比べ防腐剤の加圧注入が容易であることから耐久性の向上に繋がると考えられ、市町村での利用のモデルとなり得る。

□ 基礎データ

①令和元年度譲与額	115,343千円
②私有林人工林面積（※1）	176,867ha
③人口（※2）	1,104,069人
④林業就業者数（※3）	3,151人

※1：「森林資源現況調査（林野庁、H29.3.31現在）」より、
※2、3：「H27年国勢調査」より